

がん登録からの応援「エール」を より多くの人に届けるために

～がん登録データの存在と意義を伝えるための取り組み～



地方独立行政法人

岐阜県総合医療センター 梅田 弘美 甲斐 万智子
がん医療センター がん登録室 天谷 恭子 國枝 克行

1. 当院の紹介

岐阜市にある病床数620床の中核病院で地域がん診療連携拠点病院
院内がん登録は2007年診断症例より開始。

◆ 登録累計件数は約27,600件



2. 現状と問題点

課題

- ◆ がん登録データはがん患者にとって治療の場や治療内容を選択する際の情報収集に必要不可欠なものであるが、がん登録の認知度が低く活用が進んでいない。
- ◆ 情報提供内容・方法がわかりにくく、利用しにくい。

必要なこと

- ◆ より多くの人にがん登録の仕組みや役割についての広報活動
- ◆ 使う人の立場に立った情報提供



大切なことは…
がん登録は何のために、誰のためにあるのか

3. 取り組み

1. 広報用のポスターを制作し、ホームページや県内の拠点病院と「みんなの森・ぎふメディアコスモス」(岐阜市)で共同開催したイベントで展示。(繋ぐ:10/12 AYAWEEK:3/5)



(※写真はイベント時の様子)

2. 医師等のための緩和ケア研修会にてがん登録の仕組みについて説明
開催日：令和4年12月10日(土)
受講者：院内 23名(医師 4名、研修医 16名、公認心理師 3名)
院外 11名(内研修医 8名、公認心理師 1名) 合計 34名

<p>I. がん登録とは がん登録とがん対策</p> <p>がん対策の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. がんになる人を減らす。(一次予防) 2. がんから治る人を増やす(二次予防) 3. 元気で過ごせる時間を延ばし苦痛を軽減する(三次予防) <p>がん登録とは</p> <p>がんの診断・治療・経過などに関する情報を集め、保管・管理・解析する仕組みの事です。</p> <p>がん登録で集められたデータは、がん対策の立案や評価に活用されています。適切ながん対策を計画し、目的の成果を評価するためには、がんの死亡率・罹患率・生存率を継続して計算するがん登録の仕組みが必要です。</p>	<p>IV. 登録データの活用と今後の展望</p> <p>1. 登録データの活用事業 一部抜粋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 都道府県がん診療連携拠点病院の相談センターにおける情報提供 ・ Qi研究 ・ AYA世代・希少がんについての統計作成・情報提供 ・ 予後情報付きデータの収集と生存率の分析・公開(5年・10年予後) ・ 患者体験調査(2023年に施行予定) ・ 院内がん登録を活用した石綿による肺がん患者の実態調査 ・ 神経内分泌腫瘍専門施設情報公開プログラム <p>2. 今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Qiデータへの予後情報の連携 ・ 重要な遺伝子変異子の収集 <p>例 【乳癌】ER, PgR, HER2, Ki-67 【腎臓】HER2 【大腸癌】RAS, BRAF, MSI 【肺がん】EGFR, ALK, ROS1, BRAF, MET, PD-L1, NTRK 【食道】HER</p>
--	--

4. 考察

- ◆ **がん登録データを使う人の「エール」になるような、よりわかりやすい情報提供を積極的に行う必要がある。**
- ◆ 県内の拠点病院の実務者と協力し患者会の方の思いを聞く機会などを設け、**よりニーズに合った情報提供について考え実現**できるようにするとよい。